

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年11月14日
【四半期会計期間】	第41期第2四半期（自平成23年7月1日至平成23年9月30日）
【会社名】	株式会社アイネット
【英訳名】	I-NET CORP.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 梶本 繁昌
【本店の所在の場所】	横浜市西区みなとみらい三丁目3番1号
【電話番号】	045(682)0801
【事務連絡者氏名】	経理・財務部長 松本 将浩
【最寄りの連絡場所】	横浜市西区みなとみらい三丁目3番1号
【電話番号】	045(682)0801
【事務連絡者氏名】	経理・財務部長 松本 将浩
【縦覧に供する場所】	株式会社アイネット 東京事業所 (東京都大田区蒲田五丁目37番1号) 株式会社アイネット 中部支店 (名古屋市中区新栄一丁目5番8号) 株式会社アイネット 大阪支店 (大阪市淀川区西中島六丁目1番1号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第40期 第2四半期連結 累計期間	第41期 第2四半期連結 累計期間	第40期
会計期間	自平成22年 4月1日 至平成22年 9月30日	自平成23年 4月1日 至平成23年 9月30日	自平成22年 4月1日 至平成23年 3月31日
売上高(千円)	9,944,921	9,971,090	20,303,095
経常利益(千円)	296,864	440,619	812,738
四半期(当期)純利益(千円)	51,475	166,914	233,782
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	33,477	179,910	238,961
純資産額(千円)	8,819,426	8,333,211	8,322,011
総資産額(千円)	19,933,546	20,966,794	19,870,923
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	3.62	12.81	16.67
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	3.62	12.31	16.60
自己資本比率(%)	40.9	36.4	38.4
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	367,771	725,712	1,709,041
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	14,721	1,019,944	422,694
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	1,282,145	604,494	2,074,700
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円)	2,185,965	2,607,525	2,297,263

回次	第40期 第2四半期連結 会計期間	第41期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成22年 7月1日 至平成22年 9月30日	自平成23年 7月1日 至平成23年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	11.51	10.60

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には消費税等(消費税及び地方消費税をいう。以下同じ)は含まれておりません。
3. 第40期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

## 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社および当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日）のわが国経済は、東日本大震災に伴う生産活動の停滞から一部サプライチェーンの復旧により持ち直しの兆しが見られたものの、欧米の金融不安に起因する海外経済の減速懸念など、先行き不透明感が強まっています。

当社グループが属する情報サービス業界は、震災による景気の低迷を受け、企業のIT投資に対する慎重姿勢が一段と深まり、厳しい状況が続いています。そうした中でも、災害対策や経営合理化を目的としたデータセンターやクラウドサービス利用への関心は高まりを見せております。

このような環境下、当社グループは継続して顧客企業とのリレーション強化を図るとともに、新規顧客開拓に注力いたしました。特に企業のIT利用形態が「所有」から「利用」へと変化する中で、データセンターを活用したITマネージドサービスやクラウドサービスなどストックビジネスの拡大を積極的に図りました。

以上の結果、売上高はシステム開発サービスが減少したものの、情報処理サービスが増加し、9,971百万円（前年同四半期連結累計期間比0.3%増）となりました。

利益面につきましては、情報処理サービス売上高の増加、データセンターの稼働率向上、システム開発の生産性向上によるコスト改善、販売費及び一般管理費の低減により、営業利益は502百万円（同55.2%増）、経常利益は440百万円（同48.4%増）、四半期純利益は166百万円（同224.3%増）となりました。

当第2四半期連結累計期間におけるサービス別売上高の状況は以下のとおりです。

#### [情報処理サービス]

データセンターを活用したITマネージドサービスやクラウドサービスで売上を伸ばした結果、3,738百万円（前年同四半期連結累計期間比4.6%増）となりました。

#### [システム開発サービス]

震災の影響等もあり、企業のシステム投資の案件先送りや、予算の凍結などが見られた結果、5,797百万円（同3.1%減）となりました。

#### [システム機器販売]

流通業および金融業向けのシステム構築に付随した機器販売が増加した結果、435百万円（同12.7%増）となりました。

#### (2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は20,966百万円となり、前連結会計年度末比1,095百万円の増加となりました。その主な要因は受取手形及び売掛金の増加およびデータセンター設備の拡充などによる有形固定資産の増加等があったことによるものであります。

なお、純資産は8,333百万円となり、自己資本比率は36.4%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における連結キャッシュ・フローの状況等については、次のとおりであります。  
当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前第2四半期連結会計期間末と比較して421百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末には2,607百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、725百万円となりました（前第2四半期連結累計期間は367百万円の獲得）。  
これは主に、売上債権の増加123百万円（前年同四半期連結累計期間比52百万円増）等により資金が減少したものの、税金等調整前四半期純利益の計上399百万円（同185百万円増）及び償却による資金の内部留保539百万円（同14百万円減）等により資金が増加したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、1,019百万円となりました（前第2四半期連結累計期間は14百万円の獲得）。  
これは主に、固定資産の取得による支出1,011百万円（前年同四半期連結累計期間比779百万円増）によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は、604百万円となりました（前第2四半期連結累計期間は1,282百万円の使用）。  
これは主に、長期借入金の返済による支出647百万円（前年同四半期連結累計期間比7百万円減）及び配当金の支払いによる支出168百万円（同14百万円増）等により資金が減少したものの、短期・長期借入れによる収入1,490百万円（前年同四半期連結累計期間は480百万円の使用）により資金が増加したことによるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

基本方針の内容

当社は、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者は、当社の財務および事業の内容や当社の企業価値の源泉を十分に理解し、当社の企業価値ひいては株主の皆様との共同の利益を継続的かつ持続的に確保、向上していくことを可能とする者である必要があると考えています。

当社は、当社の支配権の移転を伴う買収提案についての判断は、最終的には当社の株主全体の意思に基づいて行われるべきものと考えております。また、当社は、当社株式の大量買付であっても、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであれば、これを否定するものではありません。しかしながら、株式の大量買付の中には、その目的等から見て企業価値や株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、株主に株式の売却を事実上強要するおそれがあるもの、対象会社の取締役会や株主が株式の大量買付の内容等について検討しあるいは対象会社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの、対象会社を買収者の提示した条件よりも有利な条件をもたらすために買収者との協議・交渉を必要とするもの等、対象会社の企業価値ひいては株主共同の利益に資さないものも少なくありません。また、当社においては、データセンターを中核とした一連のアウトソーシング受託業務をワンストップで提供できる業務体制、顧客との信頼関係、ならびにそれに依拠した「直接契約比率の向上」および「ストックビジネスの拡大」という当社独自のビジネスモデル、顧客第一主義・地元密着型の企業文化、および多様な事業パートナーとの協力関係等、こそが当社の企業価値・株主共同の利益の源泉であります。

当社株式の大量買付を行う者が、当社の財務および事業の内容を理解するのはもちろんのこと、こうした当社の企業価値の源泉を理解したうえで、これらの中長期的に確保し、向上させることができなければ、当社の企業価値ひいては株主共同の利益は毀損されることとなります。また、外部者である買収者からの大量買付の提案を受けた際に、株主の皆様が最善の選択を行うためには、当社の企業価値を構成する有形無形の要素を適切に把握するとともに、買収者の属性、大量買付の目的、買収者の当社の事業や経営についての意向、既存株主との利益相反を回避する方法、従業員その他のステークホルダーに対する対応方針等の買収者の情報も把握したうえで、大量買付が当社の企業価値や株主共同の利益に及ぼす影響を判断する必要があり、かかる情報が明らかにされないまま大量買付が強行される場合には、当社の企業価値ひいては株主共同の利益が毀損される可能性があります。

当社は、このような当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資さない大量買付を行う者は、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者として不適切であり、このような者による大量買付に対しては、必要かつ相当な対抗措置を採ることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保する必要があると考えます。

当社の企業価値の源泉および基本方針の実現に資する特別な取組み

イ．基本方針の実現に資する特別な取組み

当社は個々の従業員のノウハウ等を結集したワンストップサービスの提供、顧客との信頼関係や当社の企業文化に基づいた当社独自のビジネスモデルの維持、地元密着型の企業文化の維持、および適切な事業パートナーとの協力関係の維持によりさらなる企業価値の確保・向上を目指し取り組んでおります。

近年、個人情報保護法対策、災害対策を始めとするBCP(事業継続計画)、セキュリティ対策などに対してのアウトソーシングニーズは高く、ストックビジネスの拡大の好機と判断しております。

そこで当社はアウトソーシングビジネスの拡大を目指し、平成21年6月より第2データセンターの稼働を開始しております。

また、積極的なIR活動の推進により資本市場から正当な評価を得られるよう努力を続けております。

さらに、当社は、経営の透明性を高め監督機能の強化と意思決定の迅速化を図り、コンプライアンスを確保することをコーポレート・ガバナンス上の最重要課題と位置付け、コーポレート・ガバナンスの強化もあわせ実施しております。

ロ．基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、平成18年5月12日付の取締役会決議および同年6月23日付の定時株主総会決議により、「当社株式の大量取得行為に関する対応策(買収防衛策)」(以下「旧プラン」といいます。)を導入しましたが、旧プランの有効期間は、第35期事業年度に係る定時株主総会終了後3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終了の時までとされていたため、旧プランは、第38期事業年度に係る定時株主総会の終了の時をもって有効期間が満了いたしました。そこで当社は、上記の基本方針に従い、今後も企業価値ひいては株主共同の利益を引き続き確保し、向上させるために、平成21年6月24日開催の第38回定時株主総会において、新たな当社株式の大量取得行為に関する対応策(買収防衛策)(以下「本プラン」といいます。)の導入についてご承認いただきました。

本プランは当社株式に対する大量買付行為が企業価値ひいては株主共同の利益に資するものか、また不適切な買付行為であるかを株主の皆様が判断するために必要な情報や時間を確保したり、大量買付者と交渉を行う等の枠組みであります。当社や当社の株主の皆様を害する買収が行われた場合は、当該買付者等による権利行使は認められない行使条件を付した新株予約権無償割当をその時点の全ての株主に対して行います。

本プランは合理的な範囲で以下のようなステップにて対応いたします。

- (イ) 当社株式の大量買付行為(保有者の株券等保有割合が20%以上となる買付等および公開買付けにかかる株券等の株券所有割合およびその特別関係者の株券等所有割合の合計が20%以上となる公開買付け)またはその提案があった場合は、取締役会は、買付者に一定の情報提供を求めるとともに、買付内容に対する意見や代替案の作成等を行います。
- (ロ) 当社経営陣から独立した独立委員会は、買付者の買付内容と取締役会の代替案との比較検討、買付者との協議・交渉、買付内容や取締役会の代替案の株主の皆様に対する提示等を行います。
- (ハ) 本プランの手続きを守らず買付等が進められる場合や、買付等により企業価値・株主共同の利益が害されるおそれがある場合は、当社は、当該買付者等による権利行使を認められないとの行使条件と当該買付者等以外の株主の皆様から当社株式と引き換えに新株予約権を取得できるとの取得条項が付された新株予約権を当社以外の全ての株主に対して無償で割り当てます。
- (ニ) 新株予約権無償割当の実施に際しては、当社取締役の恣意的判断を排除するために、独立性の高い社外者からなる独立委員会の客観的な判断を経るものとしております。また、これに加えて、本プラン所定の場合には、株主総会を招集し、新株予約権の無償割当の実施に関する株主の皆様意思を確認することがあります。こうした手続きの過程については、株主の皆様は適時に情報開示を行うことにより透明性を確保することといたします。
- (ホ) 本プランの発動により、新株予約権無償割当がなされ、買付者以外の株主の皆様により新株予約権が行使された場合また当社による新株予約権の取得と引き換えに、買付者以外の株主の皆様に対して、当社株式が交付された場合は、買付者の有する当社株式の議決権割合は約50%まで希釈化される可能性があります。

上記 の取組みについての当社取締役会の判断およびその判断にかかる理由

当社取締役会は、上記 イおよびロの各取組みは、以下の理由から、当社の基本方針に沿うものであり、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保するための取組みであって、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないと判断しております。

第一に、上記 イの取組みは、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を持続的に確保し、向上させるための具体的方策として策定されたものであり、当社の基本方針の実現に資するものであります。

第二に、上記 ロの取組みは、(a)企業価値ひいては株主共同の利益を確保・向上させる目的をもって導入されたものであること、(b)買収防衛策に関する指針の要件を完全に充足していること、(c)株主意思を重視するものであること、(d)独立性の高い社外者を構成員とする独立委員会の判断を重視し、独立委員会は第三者専門家の意見を取得できるとされていること、(e)合理的な客観的解除要件を設定していること、(f)デッドハンド型買収防衛策（取締役会の構成員の過半数を交替させてもなお、発動を阻止できない買収防衛策）やスローハンド型買収防衛策（取締役会の構成員の交替を一度に行うことができないため、その発動を阻止するのに時間を要する買収防衛策）ではないことなどから、当社の基本方針に沿うものであり、当社の株主共同の利益を損なうものでも、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものでもありません。

#### ( 5 ) 研究開発活動

当第 2 四半期連結累計期間における当社グループの研究開発活動の金額は販売費及び一般管理費に63,769千円計上しております。

なお、当第 2 四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

#### ( 6 ) 主要な設備

前連結会計年度末において計画中であった第 2 データセンターの追加設備投資が当第 2 四半期連結累計期間において完了しました。資産の内容は下記のとおりであります。

所在地

神奈川県横浜市

設備の概要

第 2 データセンター内部設備工事

投資金額

755,570千円

完成年月

平成23年 6 月



### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	60,000,000
計	60,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	15,235,840	15,235,840	東京証券取引所 (市場第一部)	普通株式 単元株式数 100株
計	15,235,840	15,235,840	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成23年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
平成23年7月1日～ 平成23年9月30日	-	15,235,840	-	3,203,992	-	801,000

## (6) 【大株主の状況】

平成23年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
池田 典義	神奈川県中郡大磯町	2,014	13.22
アイネット従業員持株会	横浜市西区みなとみらい3丁目3-1	1,223	8.03
株式会社横浜銀行 (常任代理人 資産管理サービ ス信託銀行株式会社)	横浜市西区みなとみらい3丁目1-1 (東京都中央区晴海1丁目8-12)	701	4.60
株式会社北川恒産	東京都江東区東陽5丁目25-6-804	700	4.59
有限会社エヌ・アンド・アイ	神奈川県中郡大磯町東小磯697-1	287	1.89
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6-6 日本生命証券管理部内	250	1.64
三菱総研DCS株式会社	東京都品川区東品川4丁目12-2	217	1.43
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	216	1.42
トッパン・フォームズ株式会社	東京都港区東新橋1丁目7-3	211	1.38
黒川 宏子	東京都八王子市	150	0.99
計	-	5,971	39.19

(注) 1. 上記日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、216千株であります。

2. 上記のほか、自己株式が、2,204千株あります。

(7) 【議決権の状況】  
【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 2,204,800	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 13,025,500	130,255	-
単元未満株式	普通株式 5,540	-	-
発行済株式総数	15,235,840	-	-
総株主の議決権	-	130,255	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が600株(議決権の数6個)含まれております。

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社アイネット	横浜市西区みなとみらい3丁目3-1	2,204,800	-	2,204,800	14.47
計	-	2,204,800	-	2,204,800	14.47

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、あらた監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,297,263	2,607,525
受取手形及び売掛金	3,492,857	3,616,033
商品及び製品	23,261	27,203
仕掛品	94,833	134,674
原材料及び貯蔵品	23,619	25,617
その他	666,785	756,431
貸倒引当金	5,745	9,158
流動資産合計	6,592,875	7,158,327
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,789,931	6,862,485
土地	3,507,614	3,495,261
その他(純額)	1,310,756	892,884
有形固定資産合計	10,608,302	11,250,630
無形固定資産		
のれん	75,637	6,816
その他	752,121	696,475
無形固定資産合計	827,758	703,291
投資その他の資産		
その他	1,884,452	1,892,021
貸倒引当金	50,360	43,150
投資その他の資産合計	1,834,092	1,848,870
固定資産合計	13,270,153	13,802,793
繰延資産	7,895	5,674
資産合計	19,870,923	20,966,794

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	526,762	529,243
短期借入金	1 2,469,320	1 2,992,684
未払法人税等	71,103	240,983
賞与引当金	560,012	567,359
工事損失引当金	2,353	266
資産除去債務	4,209	-
その他	1,567,031	1,589,087
流動負債合計	5,200,792	5,919,624
固定負債		
社債	950,000	950,000
長期借入金	4,205,420	4,524,720
退職給付引当金	621,430	622,753
資産除去債務	40,323	40,397
その他	530,946	576,088
固定負債合計	6,348,120	6,713,959
負債合計	11,548,912	12,633,583
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,203,992	3,203,992
資本剰余金	3,353,189	3,353,189
利益剰余金	2,224,106	2,234,648
自己株式	1,147,453	1,147,453
株主資本合計	7,633,836	7,644,378
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,044	7,396
その他の包括利益累計額合計	8,044	7,396
少数株主持分	696,219	696,229
純資産合計	8,322,011	8,333,211
負債純資産合計	19,870,923	20,966,794

## ( 2 ) 【 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 】

## 【 四半期連結損益計算書 】

## 【 第 2 四半期連結累計期間 】

( 単位 : 千円 )

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成22年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 9 月30日)
売上高	9,944,921	9,971,090
売上原価	7,705,181	7,579,913
売上総利益	2,239,739	2,391,177
販売費及び一般管理費	1,915,828	1,888,416
営業利益	323,911	502,760
営業外収益		
受取利息	137	1,895
受取配当金	2,875	2,528
助成金収入	43,045	1,019
その他	18,355	16,096
営業外収益合計	64,414	21,540
営業外費用		
支払利息	58,666	51,674
持分法による投資損失	8,929	4,559
その他	23,865	27,447
営業外費用合計	91,461	83,681
経常利益	296,864	440,619
特別利益		
固定資産売却益	-	3
前期損益修正益	1,458	-
特別利益合計	1,458	3
特別損失		
ゴルフ会員権評価損	-	12,745
減損損失	-	12,623
災害による損失	-	12,029
固定資産売却損	147	2,355
投資有価証券評価損	-	1,140
固定資産除却損	2,160	427
退職特別加算金	50,594	-
事務所移転費用	24,260	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	6,997	-
特別損失合計	84,160	41,321
税金等調整前四半期純利益	214,162	399,301
法人税等	159,215	218,941
少数株主損益調整前四半期純利益	54,946	180,359
少数株主利益	3,471	13,445
四半期純利益	51,475	166,914

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	54,946	180,359
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	21,469	448
その他の包括利益合計	21,469	448
四半期包括利益	33,477	179,910
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	30,243	167,568
少数株主に係る四半期包括利益	3,234	12,342



## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	214,162	399,301
減価償却費	484,930	470,986
のれん償却額	69,011	68,820
貸倒引当金の増減額(は減少)	40,806	2,072
受取利息及び受取配当金	3,013	4,423
支払利息	58,666	51,674
売上債権の増減額(は増加)	70,636	123,413
たな卸資産の増減額(は増加)	6,373	45,779
仕入債務の増減額(は減少)	193,439	2,480
未払消費税等の増減額(は減少)	131,627	51,869
その他	78,369	55,759
小計	647,371	825,609
利息及び配当金の受取額	3,028	2,649
投資事業組合分配金の受取額	4,216	1,000
利息の支払額	58,358	51,979
法人税等の支払額	228,486	51,566
営業活動によるキャッシュ・フロー	367,771	725,712
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	177,064	956,721
無形固定資産の取得による支出	55,191	55,003
その他	246,977	8,219
投資活動によるキャッシュ・フロー	14,721	1,019,944
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	480,000	440,000
長期借入れによる収入	-	1,050,000
長期借入金の返済による支出	655,236	647,336
自己株式の売却による収入	6,822	-
自己株式の取得による支出	3	-
配当金の支払額	141,478	156,101
リース債務の返済による支出	-	69,729
少数株主への配当金の支払額	12,248	12,338
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,282,145	604,494
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	899,652	310,262
現金及び現金同等物の期首残高	3,085,617	2,297,263
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,185,965	2,607,525

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
1. 税金費用の計算	税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

【追加情報】

	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)	
第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。	

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
<p>1 貸出コミットメント契約の締結</p> <p>当社は、有利子負債の圧縮を進めるとともに、業容拡大に向け機動的かつ安定的な資金調達を可能にする手段として取引銀行5行と貸出コミットメント契約を締結しております。</p> <p>これら契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。</p> <p>貸出コミットメントの総額</p> <p style="text-align: right;">3,000,000千円</p> <p>借入実行残高</p> <p style="text-align: right;">1,000,000</p> <hr/> <p>差引額</p> <p style="text-align: right;">2,000,000千円</p>	<p>1 貸出コミットメント契約の締結</p> <p>当社は、有利子負債の圧縮を進めるとともに、業容拡大に向け機動的かつ安定的な資金調達を可能にする手段として取引銀行5行と貸出コミットメント契約を締結しております。</p> <p>これら契約に基づく当第2四半期連結会計期間末の借入未実行残高は次のとおりであります。</p> <p>貸出コミットメントの総額</p> <p style="text-align: right;">3,000,000千円</p> <p>借入実行残高</p> <p style="text-align: right;">1,400,000</p> <hr/> <p>差引額</p> <p style="text-align: right;">1,600,000千円</p>

(四半期連結損益計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
<p>1 販売費及び一般管理費のうち主要な科目及び金額は次のとおりであります。</p> <p>給与手当</p> <p style="text-align: right;">697,131千円</p> <p>賞与</p> <p style="text-align: right;">134,993</p> <p>法定福利費</p> <p style="text-align: right;">112,021</p> <p>賃借料</p> <p style="text-align: right;">102,146</p> <p>減価償却費</p> <p style="text-align: right;">55,735</p> <p>2</p>	<p>1 販売費及び一般管理費のうち主要な科目及び金額は次のとおりであります。</p> <p>給与手当</p> <p style="text-align: right;">673,104千円</p> <p>賞与</p> <p style="text-align: right;">152,057</p> <p>法定福利費</p> <p style="text-align: right;">113,689</p> <p>賃借料</p> <p style="text-align: right;">87,278</p> <p>減価償却費</p> <p style="text-align: right;">55,132</p> <p>2 災害による損失の内訳は次のとおりであります。</p> <p>債権減免額</p> <p style="text-align: right;">7,859千円</p> <p>被災従業員見舞金</p> <p style="text-align: right;">3,020千円</p> <p>被災顧客見舞金</p> <p style="text-align: right;">1,150千円</p> <hr/> <p style="text-align: right;">計</p> <p style="text-align: right;">12,029千円</p>

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年9月30日現在) (千円)	1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年9月30日現在) (千円)
現金及び預金勘定 2,185,965	現金及び預金勘定 2,607,525
預入期間が3か月を超える定期預金 -	預入期間が3か月を超える定期預金 -
現金及び現金同等物 2,185,965	現金及び現金同等物 2,607,525

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月23日 定時株主総会	普通株式	142,062	10.0	平成22年3月31日	平成22年6月24日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年10月29日 取締役会	普通株式	142,242	10.0	平成22年9月30日	平成22年12月6日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月24日 定時株主総会	普通株式	156,372	12.0	平成23年3月31日	平成23年6月27日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年10月28日 取締役会	普通株式	130,310	10.0	平成23年9月30日	平成23年12月5日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

当社グループは、情報システムの企画・開発から稼働後の運用・保守・メンテナンスまで一貫したサービスを提供しており、単一事業として管理しております。そのため、セグメント情報については記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	3円62銭	12円81銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	51,475	166,914
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	51,475	166,914
普通株式の期中平均株式数(千株)	14,218	13,031
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	3円62銭	12円31銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	51	6,483
普通株式増加数(千株)	3	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成23年10月28日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額.....130,310千円

(ロ) 1株当たりの金額.....10円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成23年12月5日

(注) 平成23年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月9日

株式会社アイネット  
取締役会 御中

### あらた監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 澤山 宏行

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 池之上 孝幸

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アイネットの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アイネット及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。